

重要なインフラである水道事業に係る今後の調査の進め方について（案）

令和 7 年 9 月 9 日

1 前回（8 月 19 日）の委員会における主な意見

- ・管路の耐震化、更新
- ・管路の工事について、従来型ではない新たな技術の導入
- ・県営水道給水区域（橘地区）の把握
- ・漏水の技術的解消、効率的な経営、事業者の確保・育成
- ・水道事業会計の推移、安定した水道事業の経営
- ・技術者の確保の方向性
- ・料金改定の必要性（水道事業の将来的な見通し）
- ・災害に備えた高田浄水場の再整備

2 調査のポイント

- ・管路の耐震化、更新
- ・災害に備えた高田浄水場の再整備
- ・新たな技術の導入、職員の技術力の継承及び地元事業者との連携
- ・安定した水道事業の経営

3 今後の調査の方向性について

水道事業に関する多様な意見を踏まえ、まずは現状の把握のため、高田浄水場の再整備の状況等を視察する。以降は、各課題について所管課から説明を受けるとともに、必要があれば参考人招致を行う。

4 現地視察の概要

視察先	小田原市高田 401 高田浄水場
日時	令和 7 年 10 月 27 日（月）午後
調査内容	・高田浄水場再整備の現状について ・管路の維持管理について ・マッピングシステムについて

5 スケジュールのイメージ

7 月 23 日	・調査事項、目的、期間、方法等の決定
8 月 19 日	・所管課から概略の説明、各委員から今後の課題と思う点や、さらに所管の説明を希望する部分などについての意見提出
9 月 9 日	・前回の委員会での意見を踏まえ、今後の調査の方向性の決定

10 月	・ 現地視察による現状の把握
11 月～1 月	・ 所管課から現況、取組内容等について報告 ・ 必要に応じて参考人の招致
2 月～3 月	・ 意見のとりまとめ（課題、提案等の協議）
5 月臨時会	・ 建設経済常任委員長報告

令和 7 年度 建設経済常任委員会行政視察日程（案）

日 程 \ 項 目	視 察 市 (人口)	視 察 項 目
【第 1 日目】 11月17日（月） 午 後	石 川 県 金 沢 市 (442, 026人)	1 金沢の食文化推進事業について 日本の食文化に注目が集まっている中、金沢市では「金沢の食文化の継承及び振興に関する条例」の施行を契機として、藩政期から培われた金沢固有の食文化の持続的な発展をめざし、市民や事業者への普及・啓発を図っている。 また、料理や嗜み等を学び、次代の職人を育てるための仕組みを検討するなど、官民の連携により、豊かさと奥深さを実感できる食文化の継承・振興に関する先進的な取り組みを行っている。
【第 2 日目】 11月18日（火） 午 前	滋 賀 県 近江八幡市 (81, 742人)	1 近江八幡市観光振興計画について 近江八幡市は、豊かな水と土壌の恵みを受け、古くから農業を中心に栄え、湖上の交通の要衝という地の利を得て、安土城等、多くの城が築かれた。多数の城址や歴史的町並みを抱え、各時代の重層的で多様な歴史文化が現在のまちの趣や品格を形成し、観光客数の増加にも寄与している。 令和 5 年には近江八幡市の観光のあり方を示す理念として、「近江八幡ライフスタイルツーリズム 近江八幡らしい生活文化の継承と共創」を掲げ、近江八幡市観光振興計画を改定している。
【第 3 日目】 11月19日（水） 午 前	愛 知 県 豊 田 市 (414, 695人)	1 地域公共交通計画について 豊田市は、約918km²と愛知県全体の20%弱の広大な市域を有し、超小型電気自動車を観光や山間部の市民の移動手段として活用するほか、トヨタ自動車と連携したEV車のシェアリング等、以前から市内の地域公共交通の充実を図ってきた。 しかし、人口減少や市域内の居住エリアの偏り、自動車の交通分担率の高さ等の状況を踏まえ、従前の計画を改定し、特に自動運転バスやコミュニティバス等の生活交通の在り方を主眼とした取り組みを強化している。